

はじめに

本書は、2024年3月、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（人間発達科学専攻保育・児童学領域）に提出した博士論文「日本のバリアフリー絵本の展開と課題」をもとに執筆したものである。

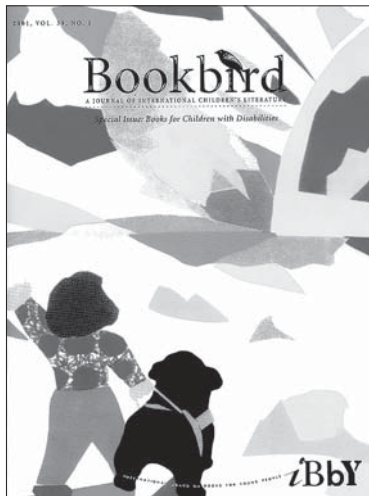
筆者の大学生時代（1970年代）に、学生が開く毎週土曜日の子ども会を楽しみにしていた子どもたちがいた。当時学校には行けなかった子どもたちだった。筆者が担当したK子ちゃんは、重い心臓病があってその治療のために四国から一家で上京していたが、その病気がもたらす知的な障害もあり、学校には通えていなかった。土曜の授業を終えて急いで昼食を済ませ、K子ちゃんの自宅に迎えに行く。家が近づくと必ずK子ちゃんの泣き声が聞こえてきた。玄関のベルを鳴らすと、ボタンと乱暴に戸が開いて、わあわあ泣いているK子ちゃんが姿を現す。「お姉さんおそい！」と泣いていたんです、といつもお母さんが説明してくれた。手をつないで、子ども会の会場に向かったときのK子ちゃんのチアノーゼからくる手の冷たさと、ハアハアしながら歩く息づかいを、今も私ははっきり覚えている。いとおいしい彼女の命が丸ごとそこにあった。

日本では、就学猶予・免除制度を残していた「障害児の就学権」を、1974年東京都の全員入学を皮切りに、1979年養護学校義務化施行によってその保障を果たそうとした。ヨーロッパやアメリカ合衆国などでは、1970年代から障害児教育の方向は統合型に向かっていたにもかかわらず、この時日本がとった施策は分離型であった。子ども会に参加して2年目に東京都の全員入学が実現し、K子ちゃんも学籍が与えられて、学校に通うようになった。だが、その分離型の教育は、地域の中にK子ちゃんたちの肯定的な存在をつくりだすことはなかった。分離型教育の体制を支えた障害児教育の理念は「障害に応じた発達保障」であった。この理念のもと、障害に応じた教育を保障するために分離型の特殊教育体制が構築され、養護学校や特殊学級の中でも、発達段階に応じた教育が志向された。そこでは、児童生徒を生活年齢ではなく発達年齢で捉え、その段階に応じた課題を設定するという実践が数多く展開されていた。

大学卒業後、筆者は特殊教育（現特別支援教育）に携わった。しかし、子どもを、大人が引く何らかのボーダーで選別していく教育の方法を、受け入れることはできなかった。当時の養護学校教育（特別支援教育）では、授業内容は各担任に任されていたので、せめて自分のクラスでは、子どもを分けない教育をしたいと試行錯誤した。絵本はその時に、よく使用した教材だった。が、彼らの年齢や生活を尊重した絵本、彼らにとって彼らの存在がそこにある絵本というのは、本当に見いだしにくい状況

だった。

一方、養護学校義務化施行にあたっては、統合教育を願う当事者や障害がある子どもの親たちが激しい就学闘争を繰り広げた。当事者や親たちは、学校とは社会で生きることを学ぶ場であり、共に育ち共に生きる教育は、学校を分けずに場を共にすることなしには実現しないと主張した。養護学校義務化に反対し、障害児者が地域で生きていくことを願う人々にとって、「共に育つ」は運動のスローガンであった。その願いは、絵本の出版にも表れ、こうした思いを込めた絵本も刊行された。



◀Bookbird (2001, vol.39, no.1) の表紙

ある日 IBBY の学術雑誌 *Bookbird* (『ブックバード』) (2001, vol.39, no.1) を手に取ったとき、「Books For All」このタイトルが筆者の目に飛び込んだ。IBBY とは International Board on Books for Young People の略称で、国際児童図書評議会が日本語表記である。IBBY (以下、この略称を使用) は 1953 年に、第二次世界大戦後の荒廃したドイツで、「子どもたちに食料だけでなく、心の栄養を！」と、子どもの本の展示会や図書館の設立に奮闘したユダヤ人女性イエラ・レップマンが呼びかけたことから始まる。大戦後のドイツ国内には、子どもの本はなく、レップマンは、終戦前ドイツが攻め込んでいた近隣の国々へ、ドイツの子どもたちのために本の寄贈をお願いし、子どもの本は国境(ボーダー)を越えて平和の使者のようにドイツの子どものもとに届いた。レップマンはそれらの本の展示会を、ドイツ国内各地で開いたが、荒廃した生活の中にもかわらず、どの展示会場にも子どもたちの長蛇の列ができたという(レップマン, 2002)。レップマンはそれらの本を恒常的に読める場所として 1949 年ミュンヘンに国際児童図書館をつくり、子どもの本に関わるすべての人をつなぐ非営利の世界的ネットワークである IBBY を設立した。ユネスコの 카테고리 B (情報・協議関係) に属する国際組織で、2026 年 5 月現在 84 カ国が加盟、本

部はスイスのバーゼルにある。子どもの本を通じた国際理解・異文化理解を図り、子どもの本は平和への架け橋になるというミッションのもとに活動している。

英文で書かれている IBBY のこの雑誌を、その時まで筆者は手に取ったことはなかった。その号は障害のある子どもたちの本の特集であった。英語で書かれてあるため、日本語のような理解の仕方では読めたわけではないが、日本では出会えないような、障害があるなしのボーダーを超える子どもの本の取り組みに心が震えた。そして、当時ノルウェーにあった IBBY 障害児図書資料センターの存在を知った。そこには世界の IBBY 支部から収集された障害児関連図書のコレクションがあり、アイディアバンクとして機能していた。また、IBBY は、隔年で各支部から推薦された図書の中から 40 冊前後をセレクトし、解説付きカタログにまとめ、展示セットとして希望国を巡回させていることもわかった。

Bookbird の記事を読み、IBBY の障害児図書のこのプロジェクトに出会ったとき、「共に育ち、共に生きる」世界を、ここに実現しようとしているプロジェクトがある！と思った。そこで、このプロジェクトが企画している展示会を日本で巡回することを決意し、2003 年 8 月「世界のバリアフリー絵本展」を立ち上げ国内巡回を開始した。現在「世界のバリアフリー児童図書展」とタイトル変更はしたが、巡回は継続している。主催は日本国際児童図書評議会（Japanese Board on Books for Young People, 以下、JBBY と表記）であり、筆者は展示会実行委員長を務めてきた。現在（2025 年 3 月）までに 210 カ所以上で巡回展示会を実施してきた。

展示会で出会っていった絵本の数々は、それまでの絵本の枠を飛び越え、「絵本を楽しみ、絵本の世界に参加することに障害（バリア）がある子どもたち」に近づこうと、さまざまなアプローチを試みていた。世界中の人たちの知恵と工夫と絵本の可能性がそこにはあった。

もくじ

はじめに…… 1

序章 本書の概要…………… 9

- 0.1 本書の目的…… 9
- 0.2 子どもと絵本…… 10
- 0.3 バリアフリー絵本とは…… 12
- 0.4 先行研究…… 14
 - 0.4.1 バリアフリー絵本の展開や現状について…… 14
 - 0.4.2 バリアフリー絵本の課題について…… 17
- 0.5 本書の構成…… 18

第1章 障害がある子どもたちのためのバリアフリー絵本の展開 ——バリアフリー【FOR】絵本…………… 19

- 1.1 手作り絵本…… 19
 - 1.1.1 さわる絵本——見えない子どもたちのために…… 20
 - (1) 盲学校教師らの開発と研究（1900年代～） 20
 - (2) 親による制作——「こひばり文庫」（1973～1979） 23
 - (3) ボランティア団体による制作（1967～） 26
 - 1.1.2 布絵本——障害が重い子どもたちのために…… 35
 - (1) 布絵本の誕生（1975）——すべての子どもたちに本の喜びを 35
 - (2) 『ちょうちょう』（1976） 35
 - (3) 布絵本の発展 37
 - (4) 読書に生かされる布絵本の特性 40
 - 1.1.3 てんやく絵本——見えない親が子と読みあう（1981）…… 46
 - (1) わが子に絵本を読んであげたい 46
 - (2) 「てんやく絵本」の考案 47
- 1.2 出版絵本…… 50
 - 1.2.1 出版されたさわる絵本…… 51
 - (1) 最初の出版（1979）——印刷技術の発展と権利運動の盛り上がり 51
 - (2) 国内唯一の手で見る学習雑誌『テルミ』創刊（1983） 56
 - (3) 国内初のフルカラー点字つき絵本『チョキチョキチョッキン』（1996） 58

- (4) 「点字つき絵本の出版と普及を考える会」による出版の促進
(2002～) 59
- 1.2.2 手話で読める絵本…… 63
 - (1) 絵本への手話の登場 (1994) 63
 - (2) 手話が母言語の子どもたちと絵本 65
- 1.2.3 やさしく読める本 (LL ブック)——知的障害への読書の壁を破る…… 66
 - (1) スウェーデンの LL ブックの翻訳本 (2002) と日本オリジナル
LL ブック 66
 - (2) 日本の LL ブックの近況 70
- 1.3 成立の関連性…… 71

第2章 障害について描かれているバリアフリー絵本の展開 ——バリアフリー【ABOUT】絵本—— 73

- 2.1 草創期…… 73
 - 2.1.1 『はせがわくんきらいや』(1976)——障害が描かれている初の絵
本…… 73
 - 2.1.2 『指で見る』(1977)——障害者を理解する子どもの本シリーズ
…… 74
 - 2.1.3 『ボスがきた』(1980)——知的障害児施設 止揚学園の絵本…… 75
 - 2.1.4 「バリアフリーの本 全10巻」(2000)——ある編集者の遺言…… 76
- 2.2 当事者によって制作されるバリアフリー絵本——バリアフリー【BY】
絵本…… 78
- 2.3 現状——絵本による障害理解…… 83

第3章 社会的ファクターとバリアフリー絵本—— 85

- 3.1 日本のバリアフリー絵本の展開に影響を与えた社会的ファクター
…… 85
 - 3.1.1 障害者に関する社会的動向とバリアフリー絵本…… 85
 - 3.1.2 IBBY 障害児図書プロジェクト…… 88
 - (1) IBBY 障害児図書プロジェクトの成り立ちとあらまし 89
 - (2) IBBY 障害児図書プロジェクトと日本のバリアフリー絵本 93
 - (3) 世界のバリアフリー絵本展・児童図書展の国内巡回 95
 - (4) 来館者の声 98
 - 3.1.3 図書館とバリアフリー絵本…… 99
 - (1) 図書館利用に障害のある人々 99

(2) バリアフリー絵本普及に果たしてきた役割	101
(3) つなぎ手としての図書館員	102
3.1.4 日本のバリアフリー絵本のパイオニア——児童書出版社 偕成社	104
3.2 日本のバリアフリー絵本の展開と社会的ファクターの年代的関連性	107
3.2.1 草創期と国際障害者年がもたらした影響——1960～1980 年代中頃	107
3.2.2 一緒に楽しめる本の志向と共生社会——1990～2010 年中頃	108
3.2.3 図書館所蔵数増加と障害者権利条約の影響——2010 年中頃以降	109
 第 4 章 バリアフリー絵本が超えてきたバリア	113
4.1 絵本のバリア（障害）とは何か	114
4.2 絵本のバリアフリーを問題の箱を使って考える	115
4.3 超えてきたバリア	116
4.3.1 絵本にあるバリア	116
4.3.2 環境にあるバリア	117
4.3.3 読書の権利に立ちはだかっていたバリア	118
(1) 視覚障害の親が子に絵本を読む	119
(2) 手話という母言語で絵本を読む	119
(3) 知的障害の RIGHT BOOK——適った（Right）本と読書の権利（Right）	119
(4) 視覚イメージを使わないさわる絵本	120
 第 5 章 新たに出現したバリア——バリアフリー絵本が抱える課題	123
5.1 バリアの再生産	123
5.1.1 バリアフリー絵本から再度とりこぼされる子どもたち	124
5.1.2 バリアの再生産を引き起こす 2 つの要因	127
(1) 商業出版であることの限界	127
(2) 作り手と受け手の乖離	129
5.2 さわる絵本の「絵」をどう考えるか	131
5.2.1 盲児の粘土作品「母」	132
5.2.2 視覚イメージのないさわる絵本	133
5.3 翻案やリライトに伴う著作権の問題	134

5.4 出現したバリアをどう考えるか……	136
----------------------	-----

第6章 「受け手—つなぎ手—作り手」の共創的制作 ————— 137

6.1 共創的バリアフリー絵本制作実践……	137
6.1.1 実践概要……	138
6.1.2 制作された作品……	138
6.1.3 共創的实践の成果……	142
6.2 共創の意義——新たなバリアを超える……	143

おわりに…… 145

文献…… 147

絵本リスト…… 152

参考資料 IBBY セレクションになった日本の本…… 156

さくいん…… 160

第4章

バリアフリー絵本が超えてきたバリア

バリアフリー絵本は、3つのバリアをのりこえてきました。

【1つめ：絵本にあるバリア】

「絵は見るもの」「本は紙」という、絵本のバリアがありました。

目の見えない子どものための「さわる絵本」や、障害が重い子どものための「布絵本」はそれらをこえました。

【2つめ：まわりにあるバリア】

バリアフリー絵本を知ること、作る人や図書館の人の考えや気持ちが変わります。本を届ける人が変わると、本のまわりのバリアも変わります。

【3つめ：本を読む権利にあるバリア】

「てんやく絵本」は見えない親が子に読むことができます。

「手話で読める絵本」は自分の言葉で絵本が読めます。

「LLブック」は年齢に合う本です。

「さわるだけで楽しめる絵本」は目の見えない人たちが、自分の力で本を楽しむことができます。

これらは、今までうっかりみおとしていた、たいせつな

「人権」のバリアをのりこえました。